

日本への福州人移民のモデル研究

—ここ 20 年来の福清人新移民を中心に—

(研究結果)

2006年5月から8月にかけて、本研究チームは福州市所轄の福清市、連江県、長樂市、浪岐区、馬尾区などや日本の大阪、神戸、横浜、東京などで日本への新移民や帰国者及びその家族に対して訪問調査とアンケート調査を行なった。なかでも福清人新移民及びその家族に対して集中的に調査した(120余世帯のうち90世帯余り)。以上の調査をもとにして、中国人の日本への国際移民と日中関係・日中社会の関連を歴史学、民族学、国際社会学、国際関係学という多視点から分析したところ、次のような結論を引き出した。

一、日本への福州新移民の移動原因として、①福州人は日本への移民伝統があり、しかも今までずっと続いてき、プロ文革期には外国への移民が基本的に停顿していても、福州人の日本への移民活動が続いていたこと、②福州の農村は未だに貧困だし、その所得は日本と大きな格差があること、③福州の血縁、地縁による堅固な移民ネットワーク、④福州の濃厚な移民文化などが挙げられる。

二、日本への新移民の移動方式：①海上からの密航方式、私費留学などの名義で合法的に入国し非合法に滞在する方式、②配偶者(中国人と日本人の国際結婚)とその他の親族の身分で合法的に入国する方式、③日本へ留学してから、日本で就職、定住する方式。

三、日本への新移民(非合法的な移民を主とする)の日本での暮らし：①重い債務(高い渡日費用、学費及び生活費など)、②きつ過ぎる労働強度、長過ぎる労働時間(日本における単純労働力の不足状況)、③高い収入、④軽く見られることがあるが、日本社会と日本人に対して基本的にいい印象をもっている。

四、日本への福州移民の帰国後の変化：①暮らしの質の変化(例えば、ほとんどの人が御殿を建てた)、②文化品位の向上、③生活方式の多様化。

五、福州人の日本への移民の見通し。福州人が相変わらず日本へ移民し続けていくと思われる。その理由として、①日中関係が改善される傾向があること、②日本は留学生を受け入れる規模を現在の10万人余りから2025年の100万人に増やすこと、③福州人の日本コンプレックス、④移民ネットワークが相変わらず重要な役割を果たすことなどが挙げられる。若い世代の移民は親の世代と違い、自分の学歴と親の世代の資源を利用して、留学を通して合法的な移民の道を歩んでいるが、これは日本にとっても有利である。ただし、日本への福州人移民の増加率が下がるだろう。その原因として、①福州人はもっと有利な移民先をもつようになっており、例えばアルゼンチン、南アフリカ共和国、ロシアなど、②中国及び福州には多くの発展チャンスがあるようになってきていることなどが挙げられる。

総じて言えば、国際移民の形成・発展はその法則性をもっており、福州人の日本への移動が必然の現象で、日中両国の発展に有利で、しかも両国の関係を強めるのに役立つと思われる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

- ①「福建新移民の発展趨勢」, 庄国土, 華東六省一市華僑事務室主任會議, 2006年10月20日, 廈門市華僑ビル。
- ②「福州新移民の特徴及び発展動向—日本への新移民を例に」, 庄国土, 福州市帰国華僑連合会會議, 2006年12月1日, 福州市僑聯ビル。
- ③「福州新移民の福州や移民相手国に対する利害分析」, 庄国土、郭玉聡, 福建省華僑事務室主任會議, 2007年2月11日, 福州市閩江賓館。
- ④「日本への中国人移民の理論・実践問題」, 郭玉聡, 中国致公党の福建省における調査研究座談会, 2007年3月18日, 廈門市廈門賓館。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

- ①題名: 日本への福州人移民のモデル研究—ここ20年来の福清人新移民を中心に—
発表者名: 庄国土、郭玉聡 論文掲載誌: 華僑華人歴史研究または南洋問題研究
掲載時期: 2007年12月
- ②題名: ここ20余年における日本への中国人移民動態
発表者名: 庄国土、郭玉聡 論文掲載誌: 福建省帰国華僑連合会編、論文集
掲載時期: 2007年末～2008年上半期

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :